



記念講演をした久米宏さんも受賞。楽しいエピソードを披露したのは、長島三奈さん(右)



山田太一さんのお祝いに駆けつけたのは、大山勝美さん(左上)と八千草薫さん

印象に残っていると話した。さらに父君との思い出、TBS入社からラジオに活路を見出した若手時代の、萩本欽一さんや横山やすしさんとの出会い、そして18年以上にわたりキャスターを務めた「ニュースステーション」の舞台裏など、自らの46年の歩みを、ユーモアを交えてたつぷりと語った。

式典のラストを飾ったのは、50周年記念賞の贈賞式と相成った。この半世紀にわたって放送界に多大な貢献があった人物、番組、組織を顕彰する同賞には計5組が選定された。

最初は「おかあさんといっしょ」。NHKエデュケーショナルの廣岡篤哉・制作統括は「歴代の担当者子どもたちと真剣に向き合ってきた精神を受け継いでいきたい」とコメント。ゲストには初代歌のお兄さんである田中星児さんが登場した。続いて脚本家の山田太一さんが登壇。「書く人の本音が見える批評にずっと励まされてきた」とコメント。ゲストは女優の八千草薫さんとドラマプロデューサーの大山勝美さん。「岸辺のアルバム」

制作当時の話を披露した。

3番目に登壇したのは、記念講演に引き続き久米宏さん。あらためて「僕は運に恵まれた」とコメント。ゲストはキャスターの長島三奈さん。「ニュースステーション」出演に至る久米さんとの出会いを語った。

4番目は「NNNDキュメント」。長年編集を務める佐藤幸一さんと日本テレビの日笠昭彦プロデューサーが登場。日笠Pは「この番組は箱根駅伝のよう」として、ネットワークの持つパワーと連携が番組を支えてきたと話した。ゲストは俳優でナレーターの高米明さん。同番組の持つ伝統の力を強調した。

最後はテレビマンユニオン。加藤義人社長の喜びの声に続き、永六輔さんと同社創立メンバーの今野勉さんが登壇。今野さんは「制作者が互いに主張しあいながら番組を作るという姿勢が認められたことは素直に嬉しい」とコメント。永さんが「来週、車椅子で『遠くへ行きたい』のロケに行ってください!」と力強く宣言すると、会場から大きな拍手が起こった。

放送批評懇談会 創立50周年記念式典



放送批評懇談会

50周年記念式典

2013年6月3日、放送批評懇談会50周年を祝う記念式典が、ウエスティンホテル東京・スタールームで開催された。会場には放送関係者を中心に多くの列席者が集った。

ハープの生演奏が流れる中、司会の山根基世さんの進行により、午後2時から式典が始まった。音好宏理事長の冒頭あいさつに続き、来賓の井上弘民放連会長、松本正之NHK会長の祝辞、そして放送批評懇談会とギャラクシー賞50年のあゆみをまとめたVTR「目を凝らし、耳を澄ませて半世紀」(約13分)が上映された。

引き続き、記念講演はキャスターの久米宏さん。テーマは「ラジオとテレビと格闘した46年。ほぼ50年です」。冒頭で「講演をするのは今回が初めて」と告白。いくぶん緊張の表情を見せつつも、さすがの久米節を披露した。1944年生まれて自らを「歩く戦後史」と称した久米さんは、アナウンサー、キャスター人生の中でも、Jリーグ開幕、細川連立内閣が崩壊した1993年という年が最も



テレビマンユニオン加藤義人社長(左)と共に壇上に立ったのは、永六輔さん(右)と今野勉さん(左)



「NNNDキュメント」の佐藤幸一さん(右)と日笠昭彦さん(中)に、久米明さんが花束贈呈



「おかあさんといっしょ」。NHKエデュケーショナルの廣岡篤哉・制作統括(左)と、田中星児さん



井上弘民放連会長(右)と松本正之のNHK会長が来賓祝辞

